

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

◇
病虫害発生予察注意報第3号

- 1 作物名 **野菜（ネギ、ナス、キュウリ、トマト等）、マメ類（黒大豆等）**
- 2 病虫害名 **アザミウマ類（ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ等）**
- 3 発生地域 **府内全域**
- 4 発生時期 **6月～8月**
- 5 発生量 **多い**
- 6 注意報発令の根拠
 - (1) 6月中旬現在、ネギでのネギアザミウマの発生は平年比やや多く、本種が媒介するウイルス病（えそ条斑病：IYSV）の発生も例年年比やや多い（表1）。
 - (2) 6月中旬現在、トマト（施設）での白ぶくれ症果率は例年比やや多く、発生ほ場率は例年比多い（表2）。
 - (3) 6月中旬現在、ナスでのアザミウマ類の発生は葉及び花ともいずれも平年（例年）比やや多い（表3）
 - (4) 6月中旬現在、キュウリでのアザミウマ類の発生は平年比多い（表4）。
 - (5) 大阪管区气象台が6月20日に発表した向こう1か月の近畿地方の気象予報では、向こう1か月の気温は平年並または低く、降水量は日本海側で平年並、太平洋側で平年並または多いと予想されている。
- 7 防除上注意すべき事項
 - (1) 葉や果実に寄生し、ケロイドやさめ肌症状、傷果、奇形果の原因となることから品質を著しく低下させる。
 - (2) 寄主範囲は広く、野菜やマメ類だけでなく多くの雑草で増殖するので、ハウス内及びほ場周辺の除草を徹底する。
 - (3) アザミウマ類には直接加害するだけでなく、ネギアザミウマやミカンキイロアザミウマ

等ウイルス病を媒介する種もいる。

アザミウマ類が媒介するウイルス病(府内既発生)

ネギアザミウマ	ネギえそ条斑病(IYSV)
ミカンキロアザミウマ ネギアザミウマ ヒラズハナアザミウマ	トマト黄化えそ病(TSWV)
ミカンキロアザミウマ	トマト茎えそ病(仮称)(CSNV) トウガラシえそ輪点病(CSNV)

表1 ネギ栽培ほ場におけるネギアザミウマ及びネギえそ条斑病の発生状況

	ネギアザミウマ		えそ条斑病	
	令和元年	平年(平均)値* ²	令和元年	例年(平均)値* ³
小株* ¹	被害株率(%)	100.0	被害株率(%)	33.3
	被害度	28.4	被害度	8.4
大株* ¹	被害株率(%)	100.0	被害株率(%)	40.1
	被害度	36.8	被害度	8.8

*1: 小株 草丈が概ね40cm未満、大株 草丈が概ね40cm以上

*2: 小株は平成21～30年の10カ年調査平均値(平年値)、大株は平成28～30年3カ年調査平均値

*3: 小株は平成28～30年の3カ年調査平均値、大株は平成26～30年の5カ年調査平均値(例年値)
(6月中旬調査)

表2 トマト(施設)栽培ほ場におけるアザミウマ類の発生状況

	令和元年	例年(平均)値*
寄生花率(%)	24.6	4.0
白ぶくれ症果率(%)	3.6	2.6
発生ほ場率(%)	100.0	48.0

*: 寄生花率は平成28～30年の3カ年調査平均値、白ぶくれ症果率及び発生ほ場率は平成26～30年の5カ年調査平均値(例年値)

(6月中旬調査)

表3 ナス栽培ほ場におけるアザミウマ類の発生状況

	葉		花*	
	令和元年	平年値	令和元年	例年値
寄生虫数(頭/葉)	0.44	0.26	0.93	1.15
寄生葉(花)率(%)	19.6	12.1	34.7	36.2
発生ほ場率(%)	100.0	84.5		

*花は平成26年～30年の5カ年調査平均値(例年値)

(6月中旬調査)

表4 キュウリ栽培ほ場におけるアザミウマ類の発生状況

	令和元年	平年値
寄生虫数(頭/葉)	16.7	2.6
寄生葉率(%)	97.0	47.8

(6月中旬調査)